

開発環境 Thonny の使い方

宮田 賢一

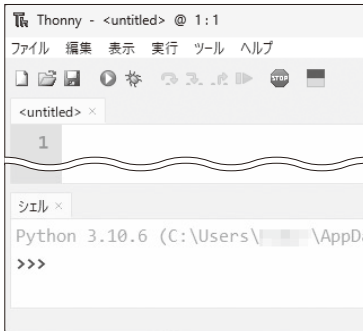


図1 Thonnyを立ち上げたときの画面

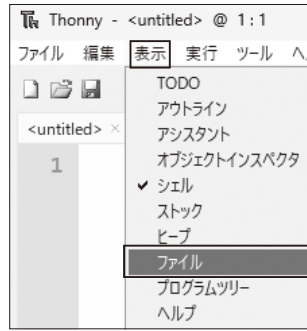


図2 [表示] - [ファイル] とたどる



図3 トップ画面右下からマイコン・ボードを指定する

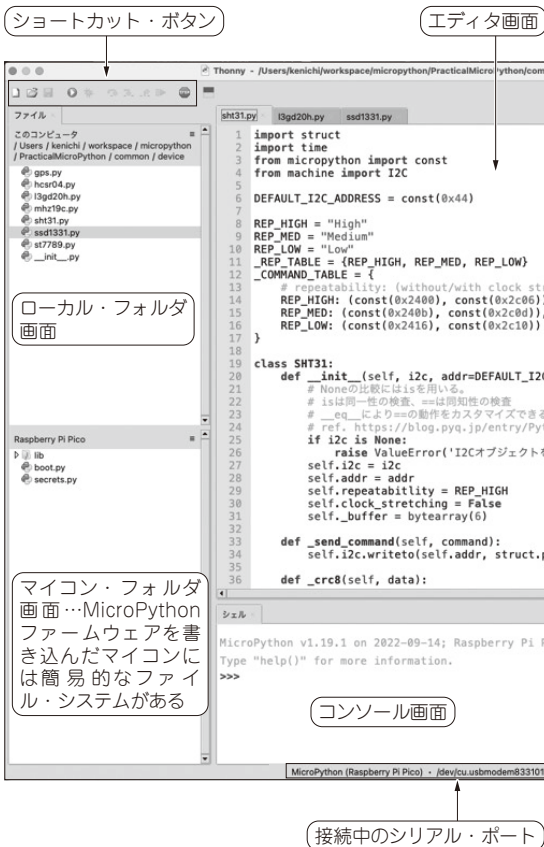


図4 Thonnyの画面(プログラムが入力されている状態)

Pythonの統合開発環境Thonnyの使い方を説明します。最初に、本誌ウェブ・ページから筆者提供プログラムIFT2303Tをダウンロードします。

<https://www.cqpub.co.jp/interface/download/contents.htm>

解凍し、任意の場所に置きます。

Thonnyを起動すると、図1の画面が開きます。[表示]-[ファイル](図2)とすることで、トップ画面左側にファイル・タブが表示されます。ファイル・タブ直下には、Cドライブが表示されていると思います。その状態から、ダウンロードしたデータを、C:\\任意の場所...IFT2303Tとたどり指定します。

次に前章でMicroPythonファームウェアを書き込んだマイコンをPCに接続します(Picoの場合、BOOTSELボタンは押さない)。

Thonnyトップ画面の右下でPicoを選択します(図3)。すると、図4の画面が開きます。画面は大きく次のパートに分かれます。

● エディタ画面

ユーザがプログラムを入力する画面です。複数のファイルを同時に開いた場合はエディタ画面上部のタブで適宜ファイルを切り替えながらプログラミングできます。以下のプログラミング支援機能があります。

- MicroPythonの文法に従ったキーワード色付け
- 自動インデント